

**地盤工学会関東支部
江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会**

平成 24 年度第 1 回委員会 議事録

出席者：正垣委員長、金田幹事、菊地委員、内藤委員、中山委員、昌子委員、小野日出男委員、渡邊委員、川辺委員、笠委員、土倉委員、田頭委員、小野田委員、藤井オブザーバー

欠席者：大里幹事、太田委員、末岡委員、坂梨委員、菅野委員、倉岡委員、小野論委員、西岡委員、田中委員、内田委員、土門委員、原委員、

委員会の進行は次の順番で行われた。

1. 委員長の挨拶
2. 平成 24 年度名簿の確認、前回議事録の確認
3. 配布資料の確認

0-0 地盤工学会関東支部 江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会 第 1 回 議事次第

1-1 地盤工学会関東支部 江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会名簿、グループ名簿

1-2 H23 年度第 2 回地盤工学会関東支部 江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会 議事録

1-3 港湾WG 報告資料 P P T

1-4 6 号ドッグ棧橋の構造計算所に関して

1-5 地下空間WG 活動報告

1-6 関東大震災による第 3 海堡の液状化

1-7 ATC19 遺産地盤学 第 2 回国内委員会

1-8 書面審議 連携方策（研究委員会、横須賀市、N P O）について

4. 各WGの経過報告

(1) 港湾WG（渡辺WG長）

藤井オブザーバーより 1 号ドッグの写真測量についての説明があった。

渡辺WG長より漏水測量についての説明があった。

漏水量と潮位にはヒステリシス関係があることなどの説明があった。

裏込め地点でのボーリング調査が必要であるとの意見があった。この件について、米軍、横須賀市、博物館等で連携して実施できないか検討したい。写真測量の 3 D 展示等は興味がある。

浸透升は細粒分がはいることによる目詰まり等の影響がある可能性がある。

大気圧・温度の測定・天候も重要である。計測時は雨が降っていたのでその分がカウントされている可能性もある。大気圧の変化で地下水位が変動することもある。これらからやはりボーリングをして計測することが必要である。

今後発生する可能性のある地震前にこの計測をしていることは意義がある。維持管理のデータに使える。集水面積の影響はないのか。大ざっぱに今回は試算している。

潮位が上がるとドッグにひずみが発生する可能性があり、その影響で漏水が止まったり発生したりする可能性がある。ひずみを計測したいが、ドッグに損傷を与えないような計測方法がなかなかない。サーモセンサーや目地にクリップをするなどの計測もありうる。6月末くらいに芸軍へ説明に行った場合の検討項目でもある。

短期間で結論を出すのは難しいので、年間を通しての漏水記録が必要ではないか。

(2) 地下空間WG（中山WG長）

中山WG長による地下空間WGの現状報告があった。

貝山地下壕の測量等についての説明があった。

横須賀市から照明機器を借りているので見学が可能であることが報告された。

昌子委員に全面的に協力していただいているとの報告があった。

5. 話題提供

(1) 正垣委員長より6号ドッグの計算書について簡単に説明があった。

詳細は次回坂梨委員から報告していただくが、当時の6号ドッグの計算が現在とほとんど変わらなかったことが報告された。今後の検討の一つは、このような計算手法がいつ頃から採用されたか？その変遷を追うことが提案された。

(2) 正垣委員長より関東大震災による第3海堡の液状化についての説明があった。

(3) 正垣委員長よりATC19 遺産地盤学 第2回国内委員会についての説明があった。

(4) 正垣委員長より書面審議について説明があった。

委員会報告として横須賀市で市民向けの報告会の実施について説明があった。

中間報告として、実施することは有意義であるとの意見があった。

防災の話題、歴史遺跡の話題等内容については議論する必要があると、正垣委員長、菊池委員、昌子委員で検討することになった。

以上